

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～あなたは・・・「就社」？・・・それとも・・・「就職」？～

2学期になり、各学年進路にむけての講演会やLHRなど動きが加速してきましたね。

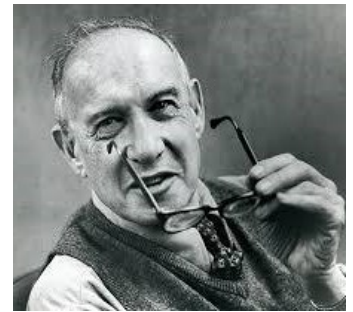
前号でも紹介した予見者、ピーター F. ドラッカーが、次のように『イノベーションと起業家精神』で述べています。

「21歳までに学んだことは5年から10年で陳腐化し、新たな理論、技術、知識と代えるか、少なくとも磨かなければならなくなる。」と。では、社会の役に立ち続けるためには、何を学んだらよいのでしょうか・・・

人は何のために学ぶのか。

- ① 順逆を越えるために学ぶ。
- ② 気質を変えるために学ぶ。
- ③ 自分のいる一隅(いちぐう)を照らすために学ぶ。

安岡正篤(まさひろ)先生の三つの学ぶ理由です。



学ぶとは、働くことと無縁ではありません。それどころか知識社会といわれる現代においては、学び続けなければ、社会の一隅を照らし続けることはできません。

働く人の労働寿命は50年を越え、組織の寿命は30年に満たないという現実は、一生のうちにいくつかの組織を移りながら働き続けることを意味します。

これまでは、「**就社**」によって役割が与えられ、定年までそれをまっとうすることができました。

その会社や業界特有の知識やスキルを身に付けておくことが最も生産的に仕事を行う秘訣でした。

しかし、働く者の労働寿命の方が長い現代社会においては・・・

「就社」ではなく、どんな職に就くのかという「就職」の意識をこれまで以上に強くもって働き続けることが求められます。

それこそが自らを照らす一隅だからです。

そのためには、他でも通用する知識やスキルはもちろん、常に環境変化を意識した新たな知識やスキルの習得も不可欠です。

コロナ禍による価値観の急激な変化は、産業構造の変化を生み、人材の流動化につながります。

たとえば、飲食店が非接触・非対面・おうち時間の充実などの価値観の変化に対応させ、テイクアウトや通信販売業に転換することで、飲食店の雇用を守り、IT産業や宅配業の雇用は増えるでしょう。

一方、たとえば自動精算機の普及のように、これまで人が行ってきた仕事がロボットやAIに置き換えられる動きがさらに加速することは間違いありません。

日々新しい仕事生まれ、他方で既存の仕事が無くなっているということです。

一途に、一心に信じた「職」に打ち込み、学び続ける。

もって社会の役に立ち続けるという覚悟が、道を拓き、花を咲かせます。

ドラッカー学会理事 佐藤 等『致知』2021年8月号 仕事と人生に生かすドラッカーの教えより

「就社」なのか・・・「就職」なのか・・・これまであまり考えることがなかった視点ではないでしょうか？

大学生の就職活動や就職率がニュースでよく報道されていますが、学生たちは「就職活動」をしているのでしょうか。それとも「就社活動」をしているのでしょうか。

君たちには、**どんな職に就いて社会の役に立ち続けるのか**という「就職」の意識をこれまで以上に強くもつことのできるきっかけになるような高校生活を送り、進路を見つけ、実現させてもらいたいと思います。

